【ツンデレ】 性格／――

御主人様のことを、内心では憎からず思っているのに、そのことを表面に出せず、そっけなく or 厳しく（＝ツンツン）当たってしまうタイプ。第三者の目線が無く（または少なく）、スイッチが入ることでその本心をさらけ出す（＝デレデレ）。そのギャップや、強がりに萌える。

本人のプライドの高さに起因するもののほか、立場（君主と家臣、敵同士、など）を優先して本音を押し殺すパターンなどが想定される。

初心者には「ツン」と「デレ」の使い分けは難しい（特に、ツンの中にデレを滲ませる演技は至難）が、極めて知名度の高い属性であり、萌え動作の型も明瞭なので、慣れてくれば簡単に萌え動作を連発できるようになる。「恋姫†無双」の愛紗に対する星のように、好意を指摘して否定のきっかけをつくってくれる登場人物がいれば、より演じやすくなるだろう。

なお、一般的に言う「ツンデレ」には、物語の初期にはそっけなく、徐々に新密度が増すことによってデレ期に移行するタイプを含む（あるいは、こちらが本来の用法とも）が、角色扮演遊戯（TRPG）セッション中の限られた時間でこの種の「時間移行型ツンデレ」を効果的に演じることは極めて難しいので、「恋姫†演技」では、このタイプを除外する。

「恋姫†無双」に登場した【ツンデレ】…愛紗、詠、華琳（華琳は時間移行型との複合。時間移行でデレ期に入った後も普段はツン状態なのでツンデレとして扱う）

取得条件…特になし（御主人様のライバルなど推奨）

複合…【お嬢様】【委員長】

背反…【素直クール】【下僕】。性格系は注意

修正…ツン期は【本音】－2、デレ期は【本音】＋2（技能段位ではなく、判定への修正）

萌え動作

1) 本音否定

御主人様に対する好意や、嫉妬の感情など、つい本心を表に出しかけてしまい、必死に否定する。否定は、必ず御主人様の目の前で、言葉によって行うこと。その際、顔を赤くする（≠頬を赤らめる）となおよい。もちろん、御主人様を張り倒す、などの行動が伴ってもよい。

例：「わ、私はただ家臣として、ご主人様の安否を気にしただけだ！」（愛紗）

2) デレ否定

その場の空気ですら本音を口にしてしまった後、恥ずかしくなって必死で否定する。

例：「嫌いだったら、こんなことしない…」「え？ もう一度言って」「に、二度というか、馬鹿一！」（詠）

3) デレ移行

スイッチが入った状態で、本心を隠さず表現する。言葉による表現が基本となるが、行動で示すのもよい。どこで「スイッチ」が入るかは遊戯者の判断に委ねられるが、御主人様から優しい言葉をかけられて精神的に盛り上がってしまう、自分 or 御主人様に生命の危機が訪れて「いま伝えないと後悔する」と追い詰められる、など、管理者や他の遊戯者にも共感を得やすいものがよい。